

『農学職 パーフェクト演習講座 植物生理・土壌肥科学』(KU12808) 訂正表

2017年4月7日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
		誤	正	
P. 18	[No. 27] 問題文	<p>[No. 27] 土壌中に含まれる水の記述について妥当なもののみを挙げているのはどれか。</p> <p>A 土壌中の結晶水として固相に含まれる水、粒子表面に界面張力により保持される水、<u>孔げき内の気相中に含まれる水蒸気</u>がある。</p> <p>B 結晶水は、土壌鉱物の物理、化学性を規定する他に液体としての物理的な機能を持つ。</p> <p>C 土壌水の水ポテンシャルは、位置、内部の界面張力、浸透圧、温度、圧力により変動する。</p> <p>D 土壌中の2地点間に土壌水の水ポテンシャルエネルギーの差が生じると、その低いほうから高いほうに水の移動が起こる。</p> <p style="text-align: right;">(地方上級)</p> <p>1 A, B 2 <u>A, D</u> 3 B, C 4 B, D 5 C, D</p>	<p>[No. 27] 土壌中に含まれる水の記述について妥当なもののみを挙げているのはどれか。</p> <p>A 土壌中の結晶水として固相に含まれる水、粒子表面に界面張力により保持される水、<u>孔げき内の気相中に含まれる水蒸気など</u>がある。</p> <p>B 結晶水は、土壌鉱物の物理、化学性を規定する他に液体としての物理的な機能を持つ。</p> <p>C 土壌水の水ポテンシャルは、位置、内部の界面張力、浸透圧、温度、圧力により変動する。</p> <p>D 土壌中の2地点間に土壌水の水ポテンシャルエネルギーの差が生じると、その低いほうから高いほうに水の移動が起こる。</p> <p style="text-align: right;">(地方上級)</p> <p>1 A, B 2 <u>A, C</u> 3 B, C 4 B, D 5 C, D</p>	2017/3/24
P. 33	[No. 27] 肢5解説	<p>5 ○ そのとおり。土性は土壌の物理性や化学性と深い関係があり、土壌分類上においても重要な性質である。<u>日本農学会法では粘土含量によって土性が分けられており、粘土含量が50%以上のものを重埴土、37.5~50%が埴壤土、25~37.5%が壤土、12.5%~25%が砂壤土、12.5%以下が砂土と区分している。</u>また、土壌中の腐植含量が20%以上のものを腐植土という。</p>	<p>5 ○ そのとおり。土性は土壌の物理性や化学性と深い関係があり、土壌分類上においても重要な性質である。<u>土性は、粘土、シルト、砂の含量によって分類(植物生理・土壌肥科学の総まとめ講座 第2章「第2節 土壌の構成」参照)されており、粘土含量が45%以上のものは重埴土、25~45%が埴土、15~25%が壤土、15%以下が砂土などである。</u>また、土壌中の腐植含量が20%以上のものを腐植土という。</p>	2017/4/7
P. 35	[No. 27] 解説文	<p>[No. 27] 〈土壌肥科学/土壌中に含まれる水〉 <u>正解 5</u></p> <p>A × このほかにも膨潤水、自由水などがある。</p> <p>B × 結晶水は流体としての機能はない。</p> <p>C ○ そのとおり。土壌水の水ポテンシャルは、位置、内部の界面張力、浸透圧、温度、圧力により変動する。</p> <p>D ○ <u>そのとおり。土壌中の2地点間に土壌水の水ポテンシャルエネルギーの差が生じると、その低いほうから高いほうに水の移動が起こる。</u></p> <p>よって、正解は肢5である。</p>	<p>[No. 27] 〈土壌肥科学/土壌中に含まれる水〉 <u>正解 2</u></p> <p>A ○ <u>そのとおり。このほかにも、膨潤水、内部毛管水、外部毛管水、自由水(重力水)がある。</u></p> <p>B × 結晶水は流体としての機能はない。</p> <p>C ○ そのとおり。土壌水の水ポテンシャルは、位置、内部の界面張力、浸透圧、温度、圧力により変動する。</p> <p>D × <u>土壌中の2地点間に土壌水の水ポテンシャルエネルギーの差が生じると、その高いほうから低いほうに水の移動が起こる。</u></p> <p>よって、正解は肢2である。</p>	2017/3/24

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/kaitei>)に掲載された日付です。